


流域治水の具体的な取組み内容

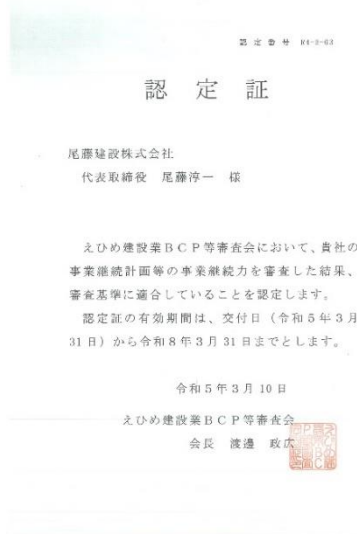
下記のとおり流域治水の具体的な取組み内容を報告します。

(企業等名称：尾藤建設株式会社)

目的や背景	近年、気候変動などにより水災害が激甚化・頻発化してくことが予想されており、河川周辺に位置する地元企業として、また、河川整備事業を担っている建設企業の責任として、水災害に対して率先して対策を講じておく必要があると感じ、取り組むこととしました。
取組み内容	<p>① 水災害に備えた資機材の確保</p> <ul style="list-style-type: none">・大型土嚢袋 20 袋常備 <p>② 水災害を含めた企業BCPの策定</p> <ul style="list-style-type: none">・平成 23 年 7 月 1 日策定、令和 5 年 10 月 1 日改訂 <p>当社のBCPは「地震災害」を対象に取り組んでいるが、海と山の距離が近い地理的な特性から、津波が河川流域に位置する当社にも災害をもたらすと考え水災害も踏まえ策定している。</p> <p>③ 河川の清掃ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none">・年 1 回愛リバーに(一社)愛媛県建設業協会四国中央支部の一員として参加 除草・ゴミ拾い・年 1 回程度 金生川除草・ゴミ拾い
取組状況が分かる写真	<p>① 水災害に備えた資機材の確保</p> <ul style="list-style-type: none">・大型土嚢袋 20 袋常備 

② 水災害を含めた企業BCPの策定

・えひめ建設業BCP認定証(令和5年3月10日)

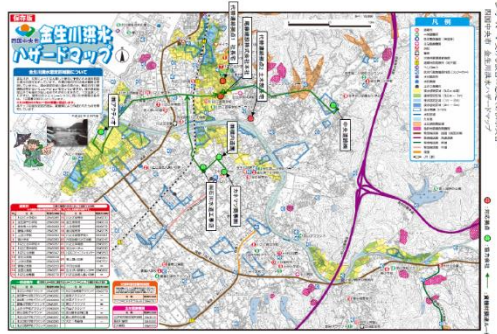


A 受ける被害の想定と重要業務の選定
 ○A-1 受ける被害の想定

対象とする災害	地震・津波・噴火・冠水	土砂災害	洪水
災害の規模	南海トラフ巨震(震度7クラス) 震度7	土砂災害警戒区域域外	洪水による浸水深度 0.5~3.0m
自社の社屋(対称拠点)	津波による浸水深度 0m	*揺れと津波による建築物の倒壊等の被害状況と想定(年層工、RC造2階建、目録による異なる)。耐震診断済、耐震補強済	*土上・机上浸水 PC・測量機器などの精密機器や車両の浸水
代替連絡拠点1(社長自宅)	半壊5年層工、RC造2階建、目録による異なる。耐震診断済、耐震補強済	土砂災害警戒区域域外のため被害は特になし。	土上・机上浸水 PC・測量機器などの精密機器や車両の浸水
代替連絡拠点2(土木部長自宅)	半壊5年層工、RC造2階建、目録による異なる。耐震診断済、耐震補強済	土砂災害警戒区域域外のため被害は特になし。	浸水被害予見区域域外のため被害は特になし。
施工現場	法面の崩壊・積雪の崩壊	法面の崩壊	集積内浸水、雨前部崩壊
電気	3日断電続	使用可能	使用可能
ガス	使用可能	使用可能	使用可能
上水道	15日断続	使用可能	使用可能
下水道	3日断続	使用可能	使用可能
通信	3日断続	使用可能	使用可能
道路	土砂崩れ、噴火、冠水による通行止め	土砂崩れによる通行止め	冠水、基盤による通行止め
出典	平成25年6月公表「愛媛県地質調査所認定調査結果」	平成20年4月公表「四国中央市ハザードマップ」	平成20年4月公表「四国中央市ハザードマップ」
自社の被害の重要データ	被害時	振込・バックアップ	災害時の対策
データ	工務部にてサーバー管理	毎時24時間サーバーにてバックアップ	重要データサーバーを保護(物理)
グループウェア(サイボウズ)	クラウド	クラウド	対策必要なし
危険・重要文書	総務部にて管理	15日ごとバックアップ P/Eをサーバーに保存	総務部が特出

■ 計画の対象とする災害の選定
 本計画においては、地震・津波を対象とする。

■ 自社の関連機関等
 関係者・パートナーシップ参加



③ 河川の清掃ボランティア活動

・愛リバー実績証明書(四国中央市土居町関川 令和4年7月20日)

土木施設維持美化活動等への参加実績

番号又は名称	尾藤建設株式会社
活動の概要	清掃活動「愛リバー」活動
活動場所	四国中央市(関川右岸)
活動日	令和4年7月20日
活動人数	延べ1人
使用機械等	
その他	
上記内容に相違ないことを証明します。 令和4年11月1日 証明者(実施機関) (一社)愛媛県建設業協会四国中央支 支部長 井原 伸	

注: 活動日は、正確に記載すること。

・河川除草状況（四国中央市金生町下分金生川 令和5年9月7日）



その他

災害に備えた資材の確保をすることや、BCPの策定・運用をすることなどにより、社員の流域治水に対する意識向上につながっている。
河川清掃ボランティア清掃は、清掃自体が流域治水に微力ながら貢献できていると思うが、それ以上の効果として、地元との連携を強められていることが災害予防、また発生時において被害を最小限にするためにつながっていると感じている。